

欧州に学ぶ

地方都市における イノベーション創出

2014
10/15
Wednesday

～講演とディスカッション～

時間：19:00～21:00

場所：長野市生涯学習センター - TOiGO トイーゴ 4F：大学習室1

主催：特定非営利活動法人 SCOP

後援：信州大学 産学官・社会連携推進機構 SHIP（信州イノベーションプロジェクト）
（株）ソーシャルアーツコンサルティング

Program

～欧州のフューチャーセンターで行われている対話の場づくりの最新動向～

導入：地方都市におけるイノベーション創出の取組み状況

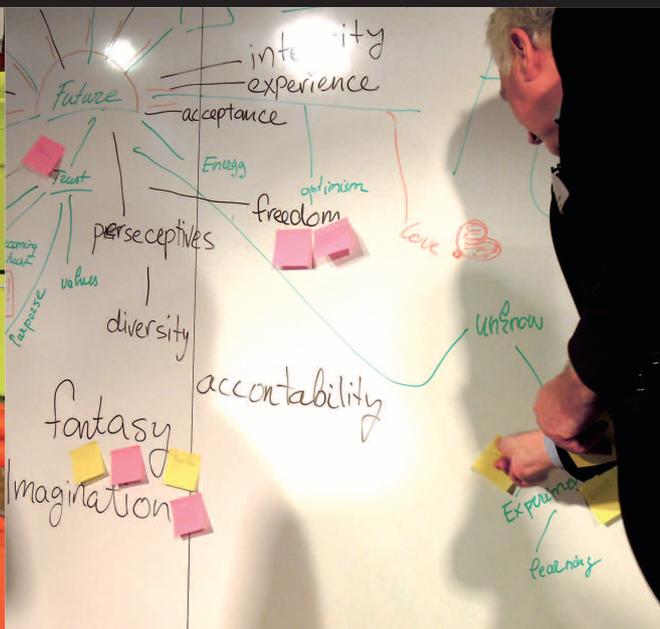
講演：「Innovation dialog in Europe」

ミニセッション：信州におけるイノベーション創出環境の現在地とこれから



ハンク・クーン氏

オランダの知識経営コンサルティング Educore 代表。オランダ政府が運営するフューチャーセンターのアドバイザーであり、世界フューチャーセンター・アライアンスや ACSI（フィンランドの Aalto 大学での産官学によるイノベーション・キャンプ）を主催するなど、イノベーションを創出する対話デザインの最先端で活躍するコンサルタント。



Leading-edge trends in the Dialogue for Innovation in Europe.



Lecturer: *Mr. Hank Kune*

開催趣旨

急速な高齢化と人口減少を背景に、地方都市には少子化対策・経済振興・ヘルスケアなど、多様かつ複雑な問題が山積しています。これらの問題はもはや特定の主体だけで解決することが難しく、行政・企業・NPO・コミュニティ等の多様な主体がそれぞれの立場や意見の違いを越えて、集合知を活かし協力関係を築くためのシステムを社会的に確立することが求められています。今回は、オランダからこの分野の先駆者・ハンク・クーン氏を招き、欧州のフューチャーセンターやリビングラボなどの先行事例を参考に、集合知と協力関係の構築により社会的にイノベーションを創出するシステムを考える機会とします。

フューチャーセンター

人的ネットワークや問題解決に関する知識などを蓄積・共有するための対話の場。1990年代に北欧の企業が最初に設置し、次いでオランダ政府などが社会課題の解決機関として導入。以後、欧州を中心に政府や企業が設置し、現在までに50機関以上が存在している。創造性とホスピタリティにあふれた環境で形式にとられない対話手法を用いることが特徴で、知識社会時代の新しいイノベーション創出モデルとして注目を集めている。

リビングラボ

日常生活のなかに実験的環境を構築することで、現場からの社会イノベーションを創発する試み。欧州では官民産学の協働による取り組みが200拠点以上で進んでおり、特にアムステルダム市のスマートシティ構想は有名。任意の領域を「生きた実験場」とみなし、ユーザー中心、オープンイノベーションといった概念を核にボトムアップでの実践を試みるこの手法は、ICTを活用した地域復興や先進的な商品開発等の分野で大きな期待を寄せられている。

参加申し込み締切

2014年 10月13日(月)

下記フォームに記入の上、ファックスにて参加申し込みください。
申込者多数の場合は抽選を行います。

定員 50名

※当日参加はできませんので必ず事前にお申し込み下さい。

お申し込みフォーム

ご氏名	ご所属	ご連絡先 (TEL)

お問い合わせ連絡先：特定非営利活動法人 SCOP (亀島・鷺見まで)

TEL:0263-36-9180 FAX:0263-36-9185